

芦屋市人口推計結果(令和6年度)

2024 年 9 月

目次

<本編>

I. 推計方法	1
1. 推計概要	1
2. 仮定値の設定	1
(1) 出生・死亡に関する仮定値	1
(2) 社会移動に関する仮定値（純移動率）	4
II. 芦屋市の人口	5
1. 人口の推移	5
2. 人口構成	6
3. 人口動態の推移	7
(1) 自然増減	7
(2) 社会増減	7
(3) 合計特殊出生率の推移	8
(4) 未婚率の推移	9
(5) 地域別転出入	10
III. 推計結果	11
1. 芦屋市将来推計人口	11
(1) 推計結果	11
(2) 芦屋市人口ビジョン（令和3年）の達成見込み	12
2. 前回推計（2019年推計）との比較	13
(1) 推計結果の比較	13
① 総人口	13
② 年齢区分別人口比率	13
(2) 差異の要因	15
① 純移動率の差異（影響大）	15
② 子ども女性比の差異（影響小）	16
IV. めざす方向性	17

I. 推計方法

1. 推計概要

本推計は、以下の方法により実施した。

推計期間：2025 年から 2060 年
推計間隔：各年
推計区分：男女別、年齢 1 歳階級別、10 地域別
基準年次：2020 年 10 月 1 日
推計手法：コーホート要因法※

※国立社会保障・人口問題研究所（社人研）「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」における仮定値を用いて推計を実施している。仮定値が公表されていない 2055 年及び 2060 年については、2050 年の仮定値を維持するとした。

また、本推計は上記のように社人研と同様の方法で推計を行っているが、端数処理（小数点以下の切り捨てや切り上げによる整数化）の方法の違いにより、「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」における芦屋市の将来推計人口の数値とわずかに差異が生じている。

社人研の推計における端数処理の方法の詳細を参照できないことから、本推計においては、推計過程の仮定値設定等において小数点以下の数値を保持したまま計算を行うこととしている。

なお、本資料に掲載する人口等の数値は、四捨五入した値であるため、合計と内訳が見かけ上一致しない場合がある。

2. 仮定値の設定

(1) 出生・死亡に関する仮定値

1) 子ども女性比

子ども女性比は、0～4 歳の人口（男女計）を、同年の 20～44 歳女性人口で割った値であり、人口推計において出生数に影響を与える指標である。

社人研「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」の子ども女性比推計値に基づく。ただし、2055 年及び 2060 年については、同資料に含まれないため、2050 年の仮定値を維持するとした。

図表 I-1 子ども女性比仮定値

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
子ども女性比	0.2615	0.2683	0.2740	0.2730	0.2748	0.2710	0.2710	0.2710

2) 出生性比

出生性比は、出生時の性別の男性の比率（女性=100）である。

社人研「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」の出生性比に基づく。ただし、2055 年及び 2060 年については、同資料に含まれないため、2050 年の仮定値を維持するとした。

図表 I-2 出生性比仮定値

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0-4歳性比	105.114	105.118	105.119	105.118	105.119	105.120	105.120	105.120

3) 生残率

生残率は、ある年齢層の人口が、5年後にも生き残っている割合であり、人口の自然減（死亡数）に影響を与える指標である。

社人研「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」の生残率推計値に基づく。ただし、2055年及び2060年については、同資料に含まれないため、2050年の仮定値を維持するとした。

図表 I-3 生残率仮定値

男性_今回推計	2020→ 2025年	2025→ 2030年	2030→ 2035年	2035→ 2040年	2040→ 2045年	2045→ 2050年
0～4歳→5～9歳	1.000	0.999	1.000	1.000	1.000	1.000
5～9歳→10～14歳	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
10～4歳→15～19歳	0.999	0.999	0.999	0.999	0.999	0.999
15～19歳→20～24歳	0.998	0.998	0.998	0.998	0.998	0.999
20～24歳→25～29歳	0.997	0.998	0.998	0.998	0.998	0.998
25～29歳→30～34歳	0.997	0.998	0.998	0.998	0.998	0.998
30～34歳→35～39歳	0.997	0.997	0.997	0.997	0.997	0.997
35～39歳→40～44歳	0.996	0.996	0.996	0.996	0.997	0.997
40～44歳→45～49歳	0.993	0.994	0.994	0.995	0.995	0.995
45～49歳→50～54歳	0.989	0.990	0.990	0.991	0.991	0.992
50～54歳→55～59歳	0.983	0.983	0.984	0.985	0.986	0.987
55～59歳→60～64歳	0.972	0.974	0.975	0.976	0.978	0.978
60～64歳→65～69歳	0.963	0.963	0.965	0.967	0.969	0.971
65～69歳→70～74歳	0.936	0.943	0.947	0.950	0.952	0.955
70～74歳→75～79歳	0.901	0.904	0.909	0.914	0.918	0.922
75～79歳→80～84歳	0.828	0.833	0.842	0.850	0.857	0.863
80～84歳→85～89歳	0.698	0.710	0.725	0.738	0.749	0.760
85歳以上→90～94歳	0.514	0.518	0.535	0.551	0.566	0.580
90～94歳→95歳以上	0.260	0.263	0.270	0.280	0.294	0.289

女性_今回推計	2020→ 2025年	2025→ 2030年	2030→ 2035年	2035→ 2040年	2040→ 2045年	2045→ 2050年
0～4歳→5～9歳	0.999	0.999	1.000	1.000	1.000	1.000
5～9歳→10～14歳	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
10～4歳→15～19歳	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
15～19歳→20～24歳	0.999	0.999	0.999	0.999	0.999	0.999
20～24歳→25～29歳	0.999	0.999	0.999	0.999	0.999	0.999
25～29歳→30～34歳	0.999	0.999	0.999	0.999	0.999	0.999
30～34歳→35～39歳	0.998	0.998	0.998	0.999	0.999	0.999
35～39歳→40～44歳	0.997	0.998	0.998	0.998	0.998	0.998
40～44歳→45～49歳	0.996	0.996	0.996	0.997	0.997	0.997
45～49歳→50～54歳	0.994	0.994	0.994	0.995	0.995	0.995
50～54歳→55～59歳	0.991	0.992	0.992	0.992	0.993	0.993
55～59歳→60～64歳	0.987	0.988	0.988	0.989	0.989	0.990
60～64歳→65～69歳	0.982	0.983	0.984	0.985	0.986	0.986
65～69歳→70～74歳	0.974	0.974	0.976	0.977	0.979	0.980
70～74歳→75～79歳	0.955	0.957	0.960	0.963	0.965	0.967
75～79歳→80～84歳	0.913	0.916	0.922	0.928	0.932	0.936
80～84歳→85～89歳	0.828	0.829	0.840	0.850	0.859	0.867
85歳以上→90～94歳	0.675	0.685	0.703	0.719	0.734	0.748
90～94歳→95歳以上	0.384	0.396	0.404	0.419	0.438	0.426

(2) 社会移動に関する仮定値（純移動率）

純移動率は、ある年齢層の5年間の社会増加数（転入超過数）を当初の人口で割った値であり、人口の社会増減に影響を与える指標である。

社人研「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」の純移動率推計値に基づく。ただし、2055年及び2060年については、同資料に含まれないため、2050年の仮定値を維持するとした。

図表 I-4 純移動率仮定値

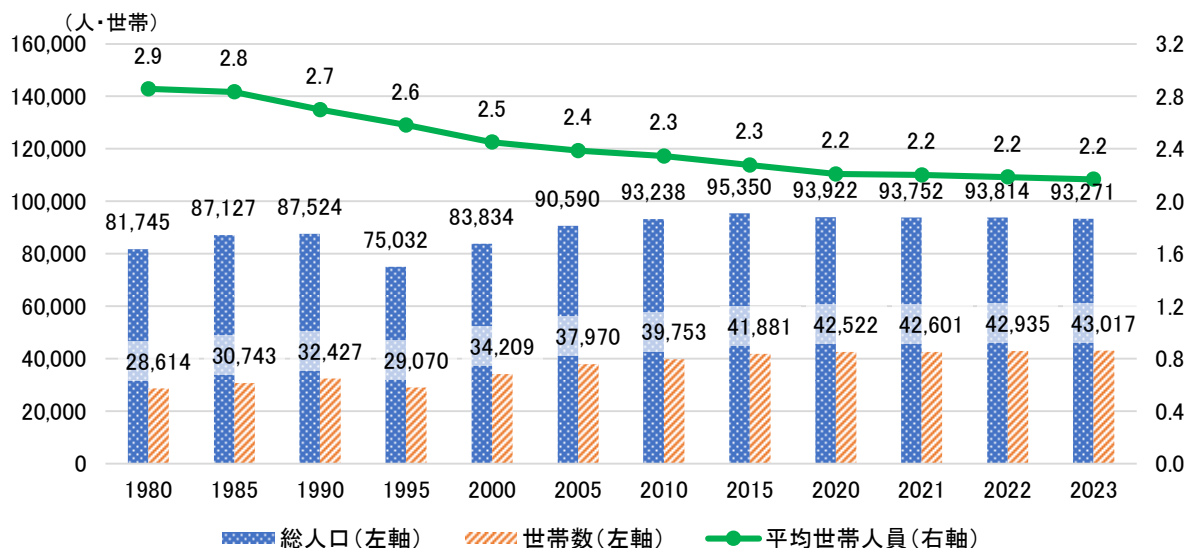
男性_今回推計	2020→ 2025年	2025→ 2030年	2030→ 2035年	2035→ 2040年	2040→ 2045年	2045→ 2050年
0～4 歳→5～9 歳	0.033	0.046	0.052	0.048	0.043	0.043
5～9 歳→10～14 歳	0.013	0.020	0.023	0.025	0.027	0.026
10～14 歳→15～19 歳	0.027	0.030	0.033	0.034	0.033	0.028
15～19 歳→20～24 歳	-0.161	-0.169	-0.156	-0.137	-0.150	-0.157
20～24 歳→25～29 歳	-0.053	-0.112	-0.109	-0.085	-0.058	-0.072
25～29 歳→30～34 歳	0.119	0.100	0.062	0.065	0.082	0.102
30～34 歳→35～39 歳	0.095	0.091	0.095	0.092	0.093	0.100
35～39 歳→40～44 歳	0.060	0.062	0.065	0.067	0.067	0.067
40～44 歳→45～49 歳	0.016	0.018	0.021	0.022	0.024	0.025
45～49 歳→50～54 歳	-0.010	-0.017	-0.015	-0.013	-0.012	-0.011
50～54 歳→55～59 歳	0.009	0.007	0.002	0.004	0.006	0.009
55～59 歳→60～64 歳	0.019	0.015	0.023	0.020	0.022	0.025
60～64 歳→65～69 歳	0.011	0.012	0.014	0.018	0.023	0.025
65～69 歳→70～74 歳	0.010	0.008	0.011	0.012	0.014	0.014
70～74 歳→75～79 歳	0.015	0.011	0.012	0.014	0.015	0.016
75～79 歳→80～84 歳	0.013	0.016	0.010	0.011	0.013	0.014
80～84 歳→85～89 歳	0.010	0.009	0.017	0.006	0.010	0.013
85 歳以上→90～94 歳	0.010	0.011	0.008	0.017	0.006	0.011
90～94 歳→95 歳以上	0.021	0.027	0.027	0.022	0.033	0.023
女性_今回推計	2020→ 2025年	2025→ 2030年	2030→ 2035年	2035→ 2040年	2040→ 2045年	2045→ 2050年
0～4 歳→5～9 歳	0.031	0.044	0.050	0.053	0.048	0.047
5～9 歳→10～14 歳	0.013	0.021	0.023	0.026	0.028	0.028
10～14 歳→15～19 歳	0.015	0.020	0.023	0.024	0.022	0.017
15～19 歳→20～24 歳	-0.020	-0.038	-0.028	-0.009	-0.015	-0.023
20～24 歳→25～29 歳	0.019	-0.022	-0.034	-0.018	0.005	0.000
25～29 歳→30～34 歳	0.142	0.137	0.099	0.090	0.103	0.122
30～34 歳→35～39 歳	0.081	0.089	0.099	0.090	0.087	0.093
35～39 歳→40～44 歳	0.052	0.050	0.058	0.064	0.063	0.065
40～44 歳→45～49 歳	0.037	0.034	0.035	0.039	0.042	0.042
45～49 歳→50～54 歳	0.017	0.012	0.012	0.014	0.017	0.020
50～54 歳→55～59 歳	0.014	0.012	0.014	0.014	0.016	0.020
55～59 歳→60～64 歳	0.013	0.012	0.013	0.020	0.024	0.027
60～64 歳→65～69 歳	0.018	0.015	0.017	0.018	0.023	0.028
65～69 歳→70～74 歳	0.009	0.007	0.006	0.007	0.007	0.012
70～74 歳→75～79 歳	0.013	0.012	0.011	0.009	0.010	0.010
75～79 歳→80～84 歳	0.018	0.021	0.017	0.015	0.015	0.016
80～84 歳→85～89 歳	0.019	0.019	0.025	0.018	0.017	0.018
85 歳以上→90～94 歳	0.008	0.008	0.006	0.014	0.004	0.005
90～94 歳→95 歳以上	0.012	0.015	0.014	0.012	0.017	0.013

II. 芦屋市の人口

1. 人口の推移

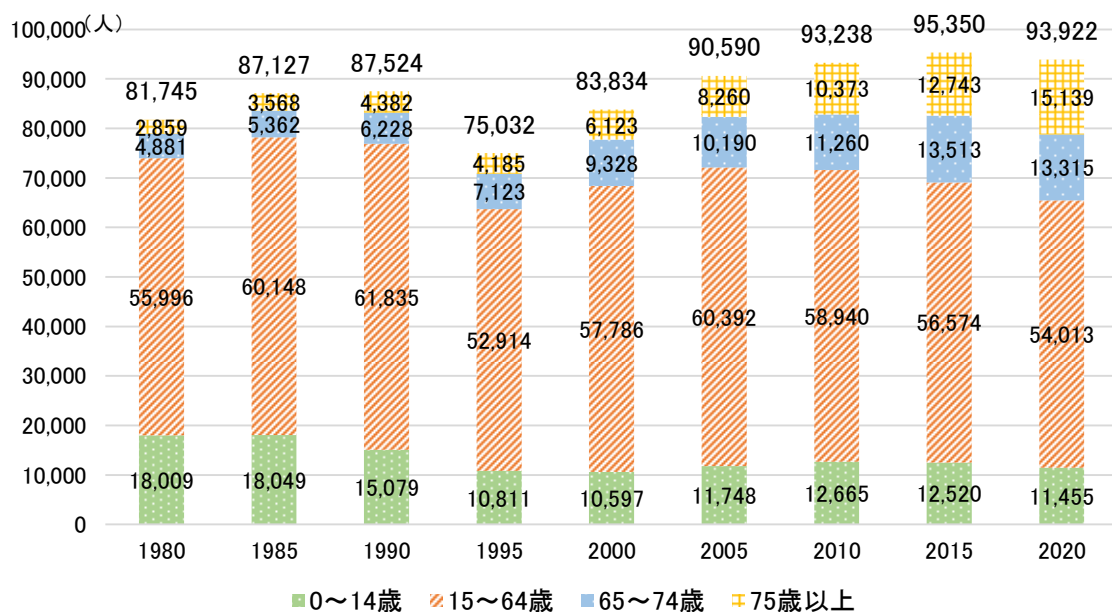
芦屋市の人口は、1995年に阪神・淡路大震災影響により急減して以降、復興整備や住宅供給により、2015年まで増加傾向で推移していた。2015年以降は、やや減少がみられるが、概ね横ばいで推移している。

図表 II-1 総人口の推移



(資料) 2020年まで: 国勢調査、2021～2023年: 芦屋市

図表 II-2 年齢4区分人口の推移



(注) 年齢不詳人口を各年次の年齢別構成比に基づいて按分しているため、四捨五入により、総人口と内訳が見かけ上一致しない場合がある。

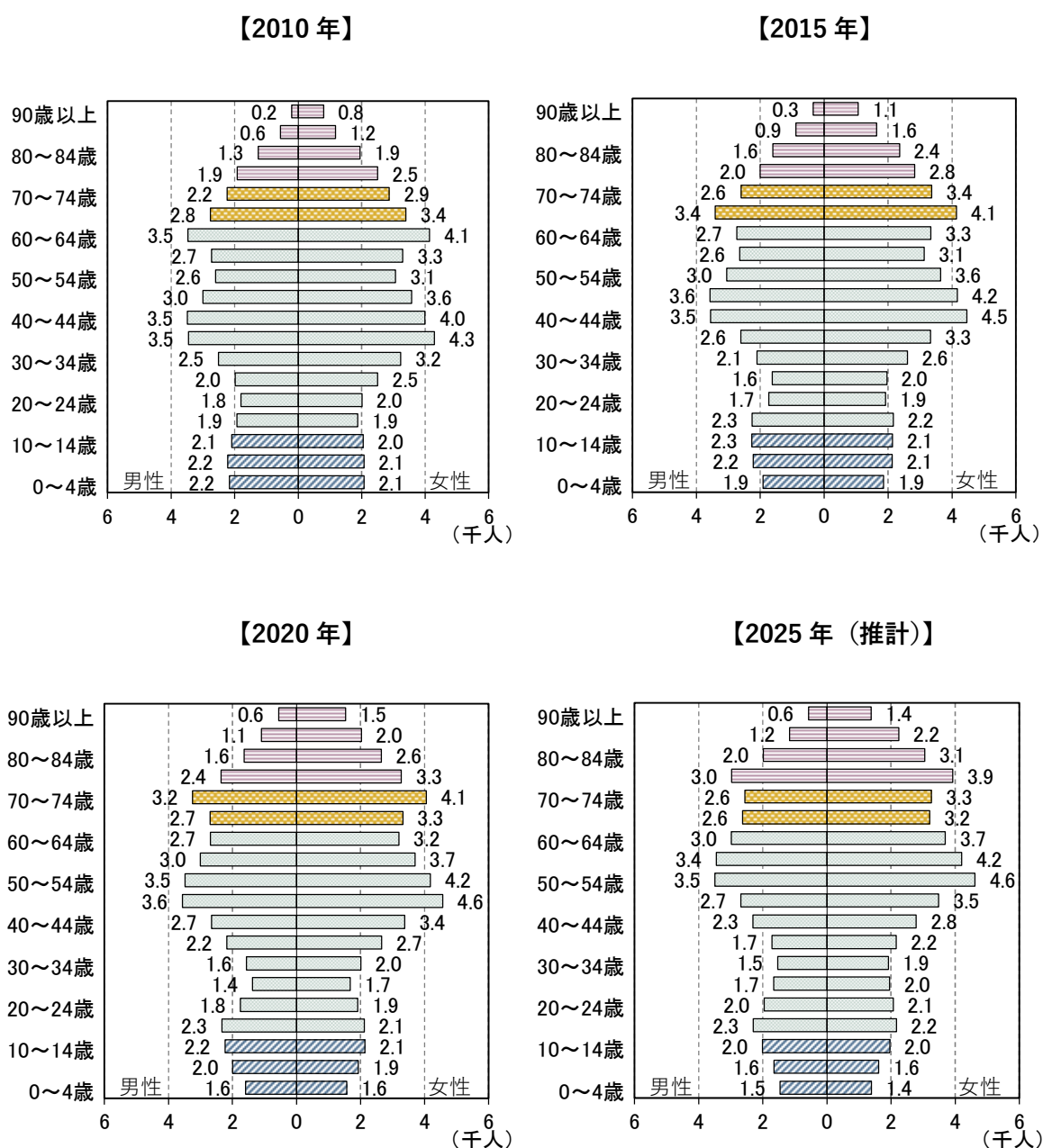
(資料) 国勢調査

2. 人口構成

芦屋市の人口ピラミッドをみると、2020 年（最新の国勢調査に基づく実績）では、70 歳代前半及び、40 歳代後半の 2 つの年齢層の人口が多くなっている。それぞれ、「第一次ベビーブーム（団塊世代）」、「第二次ベビーブーム（団塊ジュニア世代）」に当たる。

いわゆる「つば型」の人口ピラミッドとなっており、少子高齢化が進行することで、さらに上部が厚く、底部が薄い形になることが見込まれる。

図表 II-3 芦屋市の人口ピラミッド



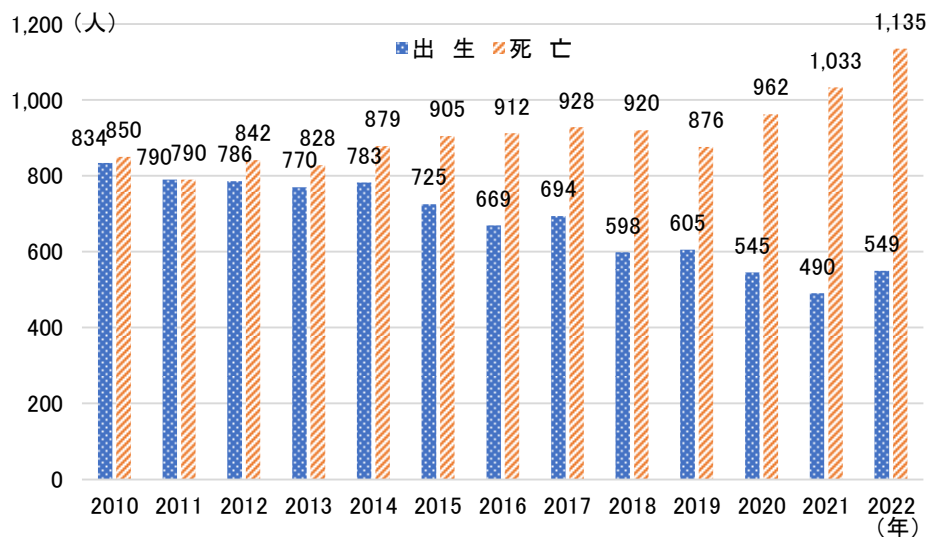
（資料）2010～2020 年：国勢調査、2025 年：推計値（後述）

3. 人口動態の推移

(1) 自然増減

人口の自然増減（出生、死亡）の状況をみると、出生数は減少傾向にあり、死亡数は増加傾向にある。また、出生数は、2021年から2022年にかけて、やや持ち直しがみられる。

図表 II-4 出生・死亡数の推移

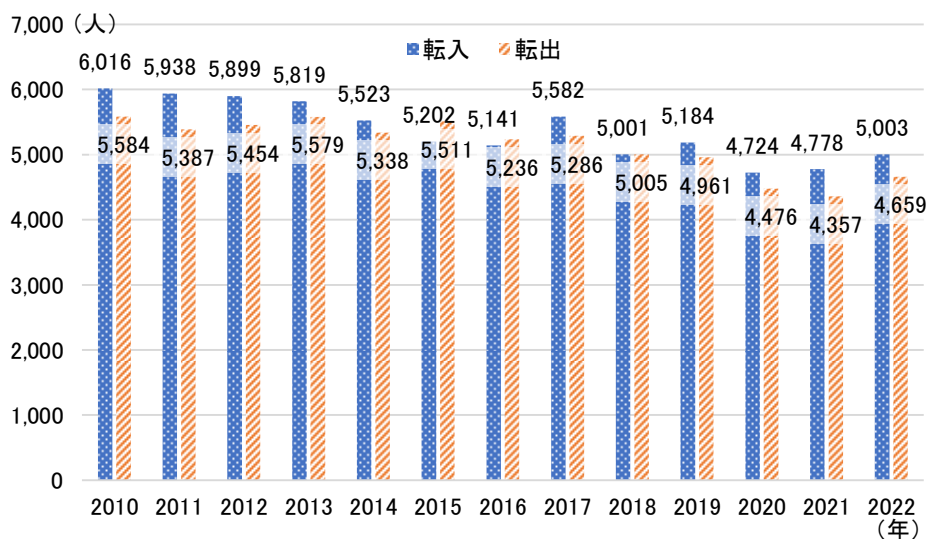


(資料) 芦屋市市民課

(2) 社会増減

人口の社会増減（転入、転出）の状況をみると、一部の年次を除き、転入が転出を上回る転入超過の年次が多くなっている。

図表 II-5 転入・転出数の推移

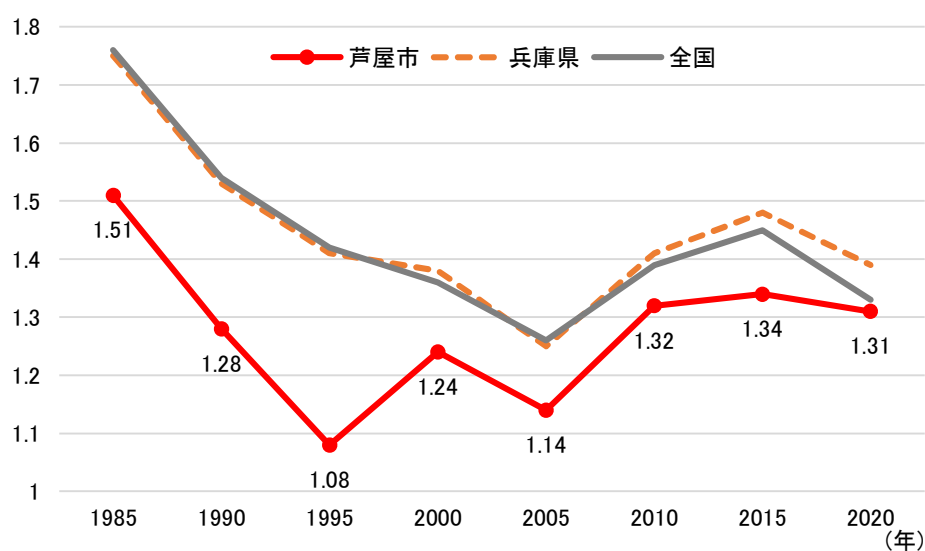


(資料) 芦屋市市民課

(3) 合計特殊出生率の推移

一人の女性が一生のうちに産む子どもの数の指標である合計特殊出生率の推移をみると、芦屋市は兵庫県及び全国を下回る水準で推移している。一方で、近年は兵庫県及び全国との差が縮小傾向にあり、2020年では、全国とほとんど同じ水準となっている。

図表 II- 6 合計特殊出生率の推移



(年)

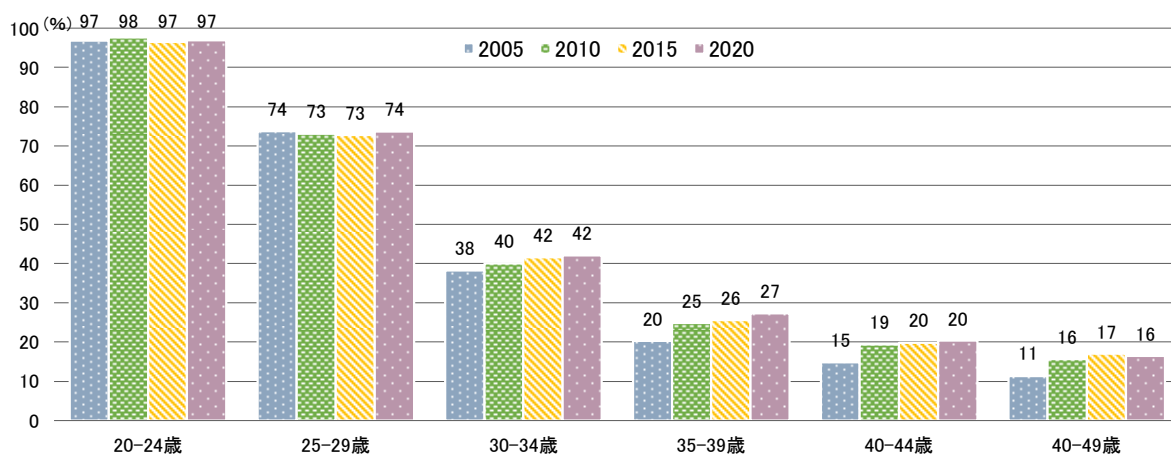
	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
芦屋市	1.51	1.28	1.08	1.24	1.14	1.32	1.34	1.31
兵庫県	1.75	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41	1.48	1.39
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.33

(資料) 兵庫県資料

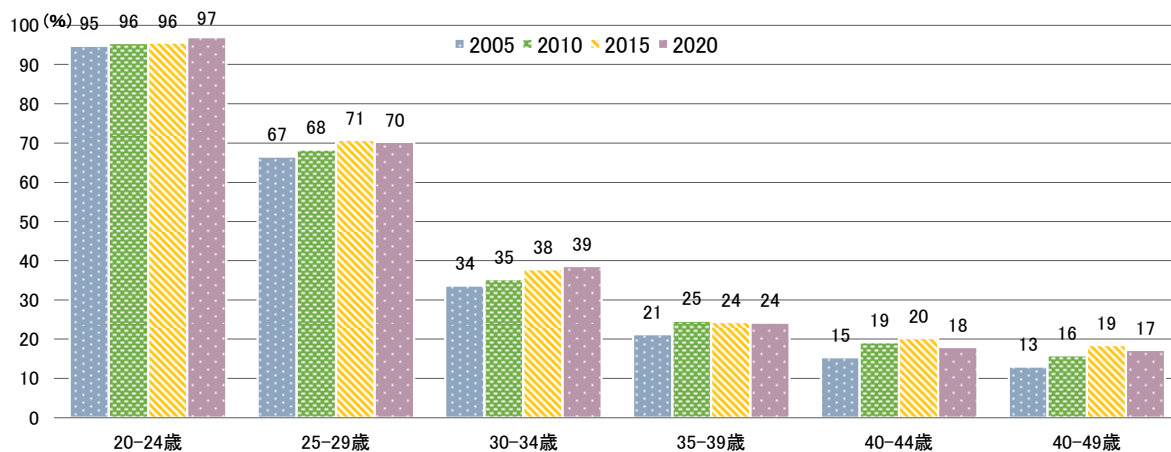
(4) 未婚率の推移

芦屋市の未婚率は、男女ともに上昇傾向にある。全国的な晩婚化の進行により、特に 30 歳代の未婚率の上昇が顕著である。一方で、40 歳代の未婚率については、男女ともに、2005 年から 2015 年にかけて上昇傾向にあったが、2020 年には横ばい・下降傾向に転じている。

図表 II-7 年齢別未婚率の推移（男性）



図表 II-8 年齢別未婚率の推移（女性）



(資料) 国勢調査

(5) 地域別転出入

芦屋市の他地域との転出入の状況（2023 年）をみると、兵庫県内では、神戸市からの転入者が多く、転入超過となっている。特に、芦屋市に隣接する東灘区との間の転入・転出者が多く、合計では 100 人以上の転入超過となっている。

また、全国の都道府県についてみると、兵庫県内からの転入・転出者が 2,000 人を上回っており、県内他自治体からの（県内他自治体への）社会移動が、芦屋市の人口動態に大きく影響を与えている。

関東圏の都道府県については、東京都及び神奈川県に対して、大きく転出超過の状況となっている。

図表 II-9 他地域との転出入の状況（2023 年）

【兵庫県内】

	(人)		
	転入	転出	転入超過
兵庫県 他市町村計	2,041	2,023	18
神戸市	977	891	86
（東灘区）	459	345	114
（灘区）	81	85	-4
（兵庫区）	46	80	-34
（長田区）	27	37	-10
（須磨区）	48	82	-34
（垂水区）	60	56	4
（北区）	80	47	33
（中央区）	120	114	6
（西区）	56	45	11
姫路市	65	55	10
尼崎市	138	172	-34
明石市	56	89	-33
西宮市	539	540	-1
伊丹市	28	39	-11
加古川市	42	44	-2
宝塚市	49	69	-20

【全国都道府県】

	(人)		
	転入	転出	転入超過
全国計	3,948	4,095	-147
兵庫県	2,041	2,023	18
大阪府	362	328	34
東京都	292	488	-196
京都府	121	129	-8
愛知県	95	78	17
神奈川県	72	122	-50
岡山県	54	28	26
滋賀県	51	41	10
奈良県	48	34	14
福岡県	46	65	-19
広島県	44	37	7

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

Ⅲ. 推計結果

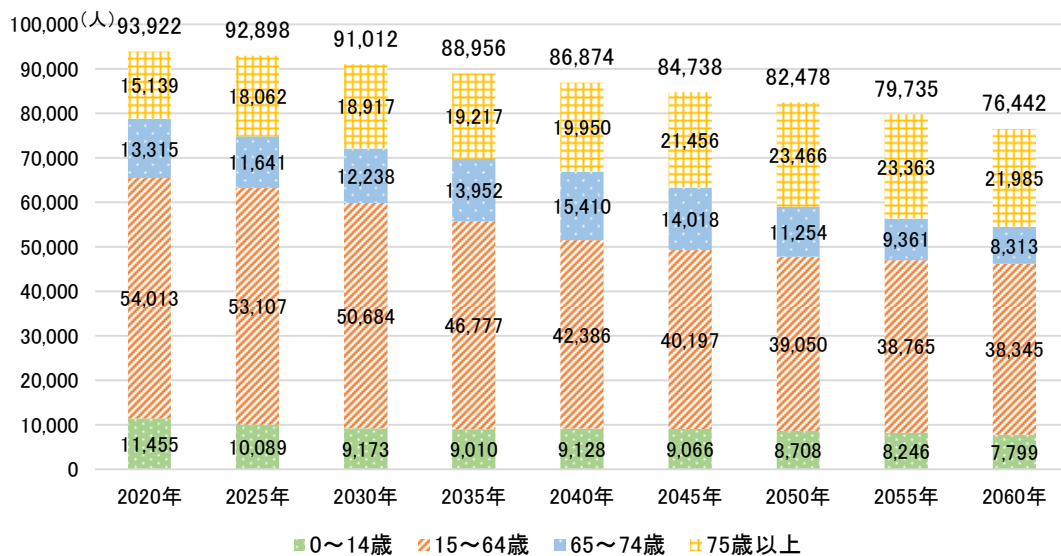
1. 芦屋市将来推計人口

(1) 推計結果

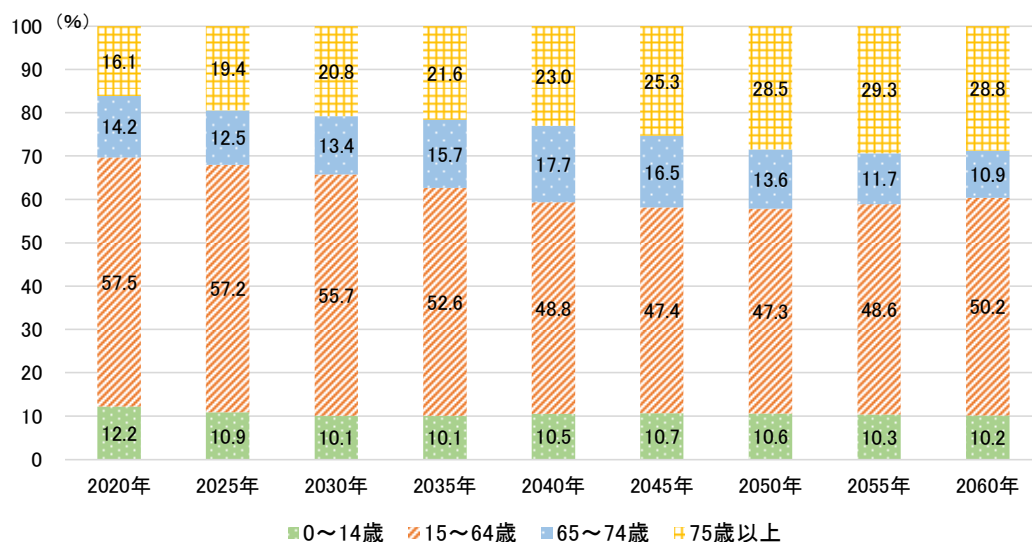
今回の推計¹においては、芦屋市の人口は、今後も減少を続け、2055年には8万人を下回ることが見込まれる。

また、高齢化の進行により、2050年には高齢化率（65歳以上人口割合）が42%に達する。

図表Ⅲ-1 総人口・年齢4区分人口



図表Ⅲ-2 総人口・年齢4区分人口構成比



¹ 「推計概要」に記載のように社人研と同様の方法で推計を行っているが、端数処理（小数点以下の切り捨てや切り上げによる整数化）の方法の違いにより、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」における芦屋市の将来推計人口の数値とわずかに差異が生じている。

(2) 芦屋市人口ビジョン（令和 3 年）の達成見込み

今回の推計結果を踏まえると、芦屋市人口ビジョンにおける目標人口（2063 年に 65,000 人以上）は達成する見込みとなっている。

一方で、今回の推計においては直近の人口動態に基づく仮定値の元、推計値を算出しているため、現在の自然増減・社会増減の動向を維持することが求められる。

なお、2023 年 10 月 1 日における人口は、93,271 人であり、令和 3 年に策定した「短期的目標」は、達成しており、今後継続的に施策展開が必要である。

図表 III- 3 芦屋市人口ビジョン（令和 3 年）の目標人口

目標 令和 45 年（2063 年）に 65,000 人以上

◆短期的目標[～令和 5 年(2023 年)]

- ・出生率の増加を維持し、人口規模約 93,000 人
（平成 30 年度比△2%）を目指します。

◆中期的目標[～令和 10 年(2028 年)]

- ・引き続き、出生率の増加を維持し、人口規模約 91,000 人
（平成 30 年度比△4%）を目指します。

◆長期的目標[～令和 45 年(2063 年)]

- ・出生率の増加を維持し、人口規模 65,000 人以上
（平成 30 年度比△31%）を目指します。

2. 前回推計（2019 年推計）との比較

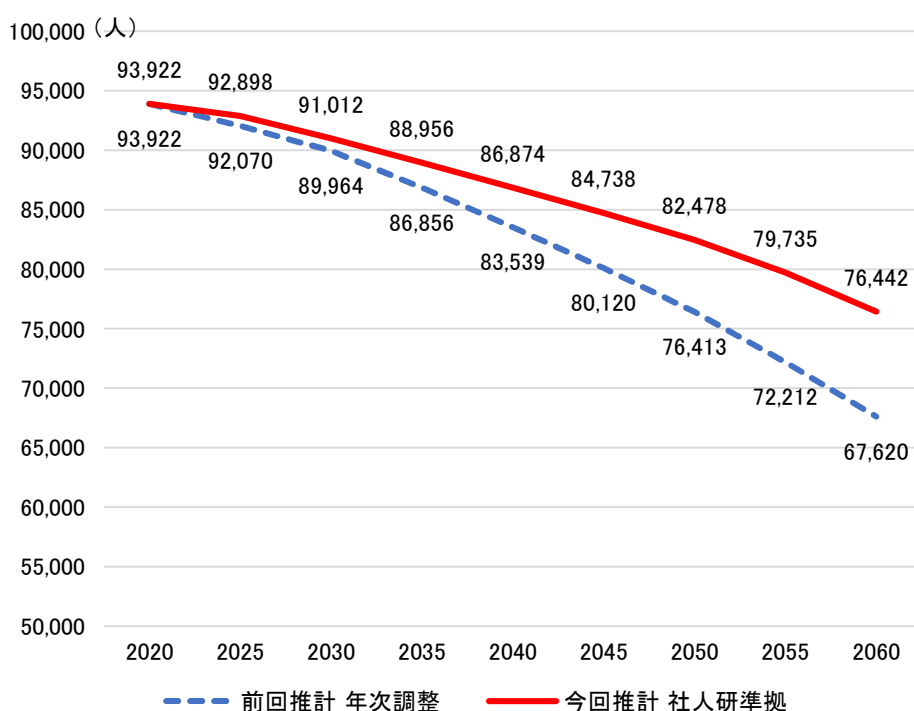
(1) 推計結果の比較

① 総人口

前回推計（2019 年芦屋市将来人口推計結果）と比較すると、2060 年時点で約 1 万人を上回る推計結果となっている。

なお、前回推計では、2018 年を始点とした 5 年間隔の推計を行っているため、今回推計との比較のため、2020 年を始点とした 5 年間隔の人口に換算を行っている。（次の年齢区分別人口比率についても同様）

図表 III-4 前回推計・今回推計の総人口比較

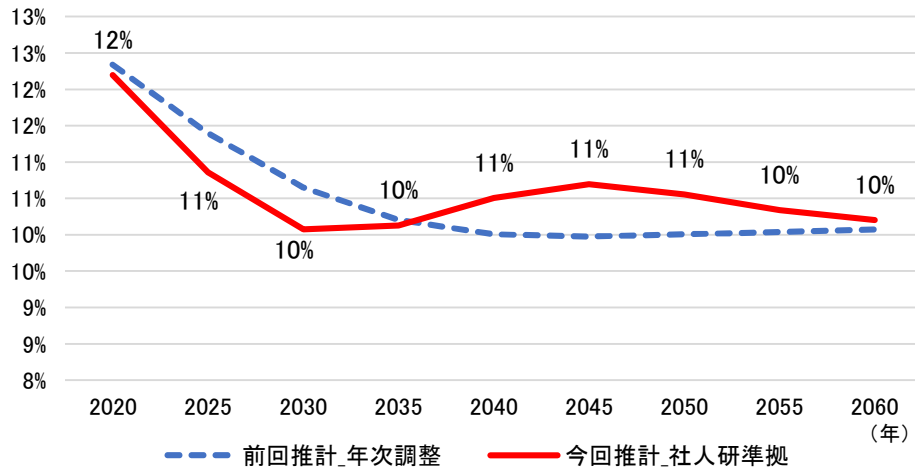


② 年齢区分別人口比率

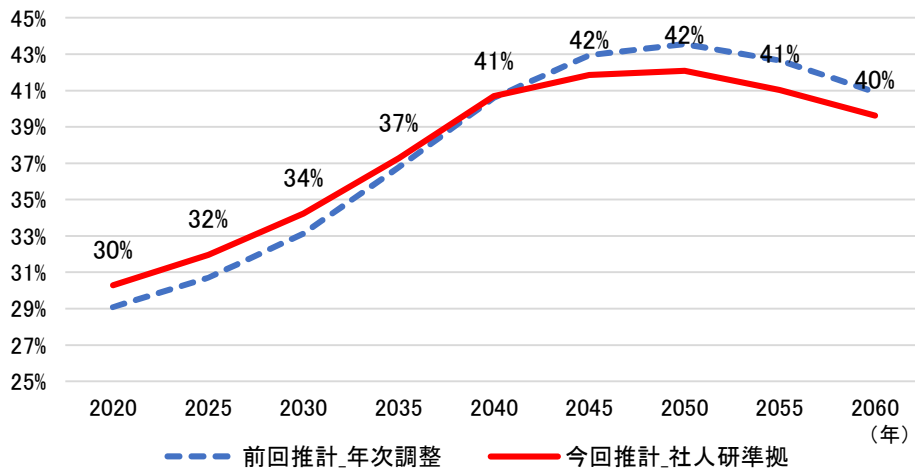
年齢区分別人口比率については、年少人口（0～14 歳以下人口）、生産年齢人口（15～64 歳人口）、高齢者人口（65 歳以上人口）ともに、2020 年及び 2060 年を比較すると、概ね同水準となっている。（図表は次頁に掲載）

一方で、年少人口比率については、2035 年の前後で傾向が異なり、今回推計では、2035 年までは前回推計を下回るのに対し、2040 年以降は上回っている。

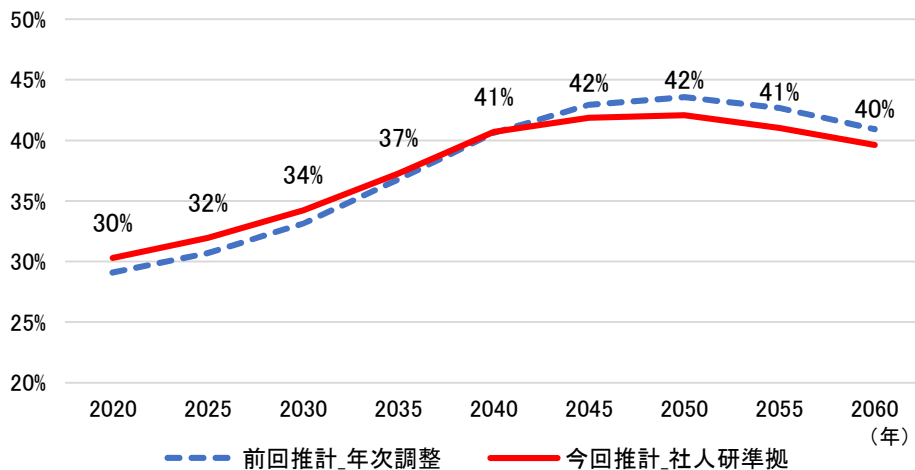
図表 III- 5 前回推計・今回推計の年少人口比率の比較



図表 III- 6 前回推計・今回推計の生産年齢人口比率の比較



図表 III- 7 前回推計・今回推計の高齢化率（高齢者人口比率）の比較



(2) 差異の要因

前回推計と今回推計の差異の要因として、社会移動に関する仮定値である純移動率と、出生に関する仮定値である子ども女性比の際による影響がある。

① 純移動率の差異（影響大）

特に女性の純移動率に関して、前回推計と比べて今回推計で用いている社人研公表値に大きな改善がみられる。女性人口の社会増減が改善された結果、出生数も増加し、前回推計との差異につながっていると考えられる。

図表 III-8 前回推計（上図）・今回推計（下図）の女性の純移動率仮定値

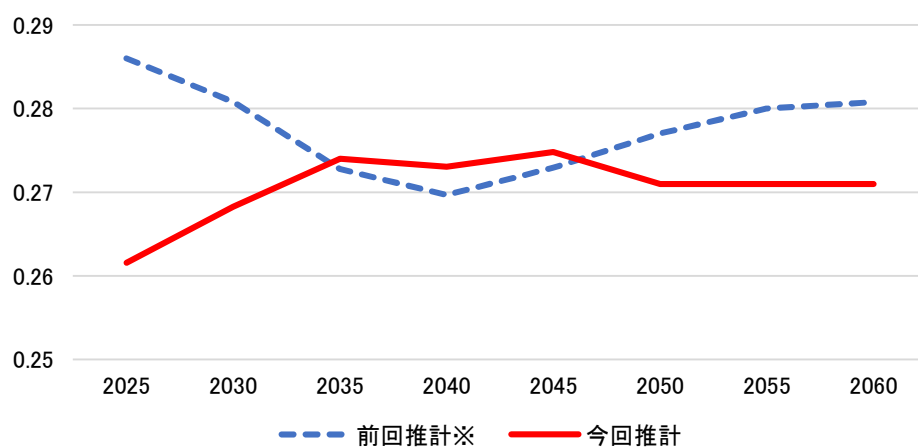
女性_前回推計	2018→ 2023年	2023→ 2028年	2028→ 2033年	2033→ 2038年	2038→ 2043年	2043→ 2048年
0～4 歳→5～9 歳	0.019	0.025	0.028	0.031	0.034	0.036
5～9 歳→10～14 歳	-0.004	-0.002	-0.002	-0.001	-0.001	-0.001
10～14 歳→15～19 歳	0.039	0.054	0.061	0.065	0.066	0.065
15～19 歳→20～24 歳	0.034	0.007	0.001	0.007	0.010	0.011
20～24 歳→25～29 歳	-0.071	-0.094	-0.120	-0.121	-0.107	-0.102
25～29 歳→30～34 歳	-0.005	-0.001	-0.001	-0.003	-0.002	-0.002
30～34 歳→35～39 歳	0.013	0.024	0.031	0.035	0.037	0.037
35～39 歳→40～44 歳	-0.014	-0.013	-0.012	-0.009	-0.007	-0.007
40～44 歳→45～49 歳	0.007	0.009	0.009	0.009	0.010	0.010
45～49 歳→50～54 歳	0.016	0.021	0.022	0.021	0.023	0.024
50～54 歳→55～59 歳	0.027	0.033	0.037	0.048	0.056	0.057
55～59 歳→60～64 歳	0.012	0.018	0.019	0.022	0.028	0.031
60～64 歳→65～69 歳	0.013	0.011	0.011	0.011	0.013	0.014
65～69 歳→70～74 歳	0.011	0.015	0.013	0.011	0.011	0.011
70～74 歳→75～79 歳	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
75～79 歳→80～84 歳	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
80～84 歳→85～89 歳	0.004	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004
85 歳以上→90 歳以上	0.011	0.011	0.009	0.010	0.007	0.005

女性_今回推計	2020→ 2025年	2025→ 2030年	2030→ 2035年	2035→ 2040年	2040→ 2045年	2045→ 2050年
0～4 歳→5～9 歳	0.031	0.044	0.050	0.053	0.048	0.047
5～9 歳→10～14 歳	0.013	0.021	0.023	0.026	0.028	0.028
10～14 歳→15～19 歳	0.015	0.020	0.023	0.024	0.022	0.017
15～19 歳→20～24 歳	-0.020	-0.038	-0.028	-0.009	-0.015	-0.023
20～24 歳→25～29 歳	0.019	-0.022	-0.034	-0.018	0.005	0.000
25～29 歳→30～34 歳	0.142	0.137	0.099	0.090	0.103	0.122
30～34 歳→35～39 歳	0.081	0.089	0.099	0.090	0.087	0.093
35～39 歳→40～44 歳	0.052	0.050	0.058	0.064	0.063	0.065
40～44 歳→45～49 歳	0.037	0.034	0.035	0.039	0.042	0.042
45～49 歳→50～54 歳	0.017	0.012	0.012	0.014	0.017	0.020
50～54 歳→55～59 歳	0.014	0.012	0.014	0.014	0.016	0.020
55～59 歳→60～64 歳	0.013	0.012	0.013	0.020	0.024	0.027
60～64 歳→65～69 歳	0.018	0.015	0.017	0.018	0.023	0.028
65～69 歳→70～74 歳	0.009	0.007	0.006	0.007	0.007	0.012
70～74 歳→75～79 歳	0.013	0.012	0.011	0.009	0.010	0.010
75～79 歳→80～84 歳	0.018	0.021	0.017	0.015	0.015	0.016
80～84 歳→85～89 歳	0.019	0.019	0.025	0.018	0.017	0.018
85 歳以上→90～94 歳	0.008	0.008	0.006	0.014	0.004	0.005
90～94 歳→95 歳以上	0.012	0.015	0.014	0.012	0.017	0.013

② 子ども女性比の差異（影響小）

推計にあたって自然増（出生）に影響する指標である子ども女性比は、一部年次を除き、前回推計の仮定値がやや上回っている。

図表 III-9 子ども女性比仮定値比較



	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
前回推計※	0.286	0.281	0.273	0.270	0.273	0.277	0.280	0.281
今回推計	0.262	0.268	0.274	0.273	0.275	0.271	0.271	0.271

※前回推計は2018年を始点とした5年間隔の推計であるため、今回推計（社人研準拠）と同じ年次で比較するため、中間年次の子ども女性比を按分により算出している。

IV. めざす方向性

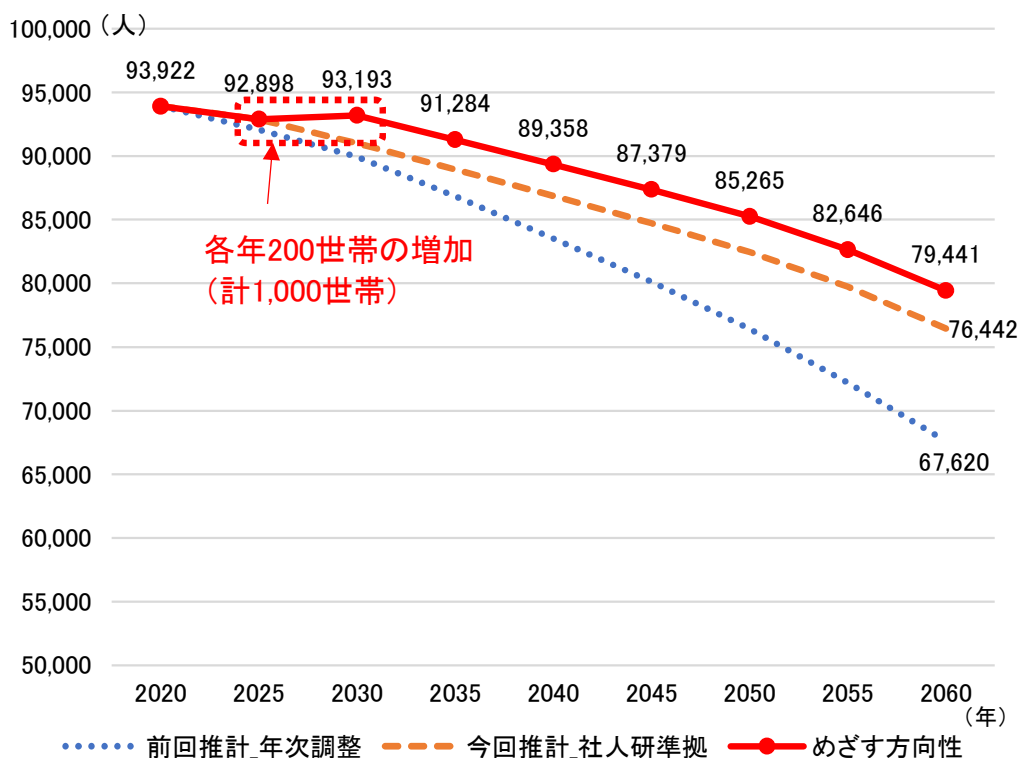
p.12のように、令和45年（2063年）に65,000人以上と定めた。一方で、今回実施した社人研に基づく推計は、上回る見込みであるため、同人口ビジョンは堅持しつつ、さらなる高みを目指し、少子高齢化対策として、めざす方向性を設定する。

芦屋市の今後の目標人口の検討のため、**転入超過状況にある年齢層の社会増加がさらに拡大し、より具体的な仮定を設定した推計とし**、以下条件でシミュレーションを実施した。
なお、この場合、将来推計人口は、2060年時点で約8万人を達成する見込みとなる。

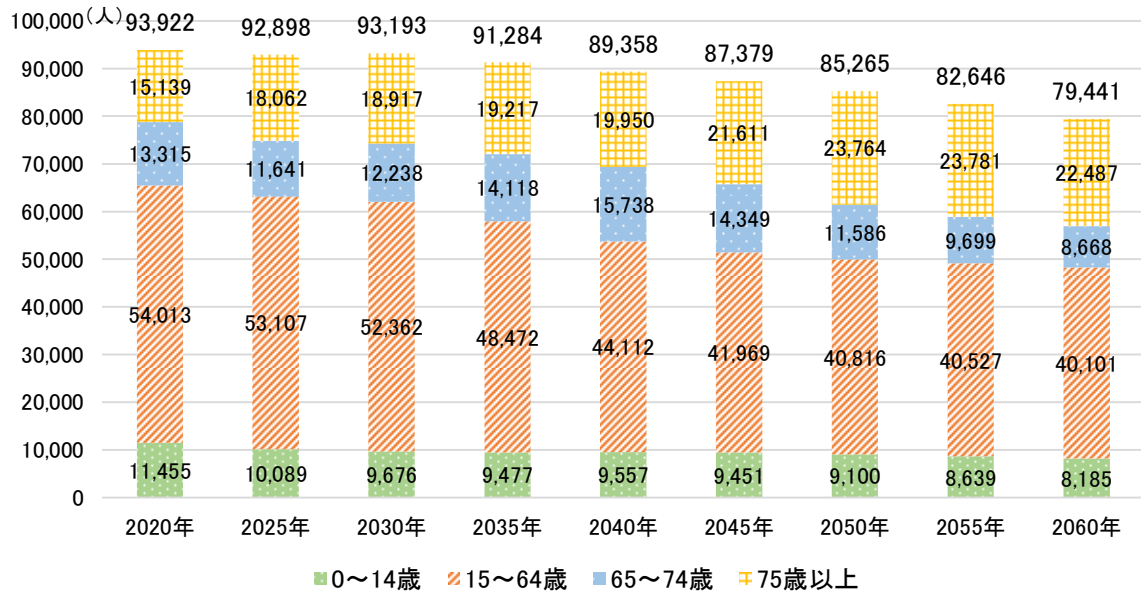
2025年から2030年にかけて、各年200世帯が増加（計1,000世帯増加）する。なお、世帯の増加に当たって、男女ともに年少人口及び生産年齢人口が増加（0～64歳人口が増加）すると仮定した。

※1世帯当たり人員は、国勢調査（2020年）を参照し、2.18人とした。

図表 IV-1 めざす方向性



図表 IV-2 めざす方向性—総人口・年齢4区分人口



図表 IV-3 めざす方向性—総人口・年齢4区分人口構成比

